

一般質問「町政に問う」



春日 隆司 議員

一問一答方式  
質問時間 1 時間

谷町政一年の総括について

**質問** ①町政全般をどのような総括、評価しているか。成果は何か。②前町政に対する町長の主張された課題、町民意見を聞く姿勢が欠けている、行政主導型の流れを変える、硬直化した行政など、主張課題解決が進展しているか。③政治倫理の取組が進展しているか。

**町長** ①「一二〇の約束」と「主要公約」の八割程度を実施若しくは実現に向けて歩み出している。町政の評価は、町民の皆様の評価によって判断すべきもの。どのような評価をいただき、次期の施策反映にどのようなにつなげていくことができるか、今後、知恵を絞り、汗をかいていきたい。

②町民との対話を重視していく姿勢が変わりはなく、町民の皆様をはじめ、各団体や町職員との懇談を通じて、様々な意見をいただいている。顕在化している意見、潜在している意見をどのように引き出し、お受けすることができ

か、日々腐心している。前町政の優れた施策を引き継ぎ、将来の下川町を創造できるような基盤をつくること。現状の課題を解決するために新しい手法を用いることも必要。情報の公開が肝要。広報を中心として基本的な行政情報の発信に努め、町の将来に影響を与える施策は、住民説明会を開催し、伝える機会を創出している。一方、行政が主体となつて事業を進めていかなければならぬ場合もある。普段の情報発信とともに進捗の節目には積極的な説明が必要である。

③「町長等の政治倫理規程」を制定し、町長等の行動基準を明確化したところである。この規定は、町長等に対する町民の調査請求権の存在を明らかにしている。大変厳しいものと認識している。自治基

本条例の検証と見直し、当初の予定よりも議論が遅れている。早急に庁舎内の検討作業や町民の皆さんとの検討作業を進めていく。

**再質問** 「下川町は普通の自治体ではなく、従前の取組にとらわれない先駆的な行政、政治、規律、法体制も含め、新しい日本を代表する自治体の仕組みをつくる」この認識について共有することができ

**町長** 下川町は全世界的に課題となつている二酸化炭素の削減や、エネルギー問題など、いち早く着手し政策的に取り組んできた。環境モデル都市や環境未来都市、バイオマス産業都市など、手を挙げ、採択を受けた。着実に日々努力している。ほかの自治体の類をみない、特異性のある先駆的なまちづくりをしっかりと行政だけではなく、議会や住民の皆さんと一緒に取り組んでいくことが必要。当然共通認識として今後も持ち続けたい。

**町長** 進めている80%というのはおおよそ継続を中心とした公約の実現である。

**再質問** 町長公約の80%程度実現のうち、継続的な公約の割合は。

**町長** 高校問題、今後、計画している高齢者関係の施設について基本的な課題に対する対処の方法は。

**町長** 高校存続の大きな命題の中、きめ細かな施策をつくらせていく、きめ細かな事業活動を展開していくということが必要。将来10年後、20年後、50年後、どういう展開になっていくかしっかりと把握していく必要がある。

**再質問** 右肩上がりの状況ではない、現在のように先が見通せない時代にあつて、10年先、20年先を見据えて、どういう姿になるのかを想定しながら、現在何をすべきかが必要かと思うが共有ということ

**町長** 27年度からスタートした総合計画の後期計画のところ、30年度に向けてしっかりと計画を実現できるようにしていく。

**再質問** 行政の硬直化について、現状、今後をどう考えているか。

**町長** 行政は住民から少しかけ離れたところで分類されている。公平性、公正さを遵守していかなければならないというものもある。一定程度、住民との距離もおかざるを得ないところもある。風通しの良い町行政とするため住民と多くの語れる場をつくっていくことが必要。

**再質問** 補助事業提案の前に住民との意見交換の場が必要だとの方々は今も変わっていないか。

**町長** ケースバイケースによる。  
**再質問** 政治倫理規定で政治倫理審査会を設置することになっていく。まず町長自らそこで町長の政治倫理について